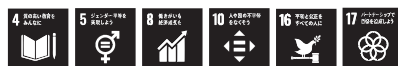


きらめき

坂城町女性団体連絡会だより

発行 坂城町女性団体連絡会
編集 女団連だより編集委員会



活動報告

「女と男ふれあいさかき」

2022

赤池 珠美

昨年11月12日、テレビのCMでもお馴染みの若宮正子さんにご講演いただきました。

「活動寿命」新しい言葉ですね。

若宮さんは58歳からパソコンを始め、81歳でアプリの開発をされ、アップル社CEOから高く評価されておられます。

なぜこんなことができたのか？

それは、若い頃から職場でも、「思いっぴちやう」と改善提案、情報発信がお好きだったという土台の上に、着物のかわりにパソコンを買うような好奇心が旺盛だったからなんです。10年に渡ってお母様の介護も、「不良介護」と表現され、その間もパソコンを通じて外の世界と繋がることでできていたから、介護疲れはなかったそうです。お年寄りが喜ぶアプリを作りたいと考えていた若宮さんは、今では世界の国々のIT化にも目を向け、進んでいるとは言えない日本の現状も感じておられます。

「年寄りだつてやればできる！」その元になるのは、好奇心。若い頃から色々なものに興味を持って

「分からなくてもやってみる」その気持ちで老後の豊かさを築いていくことを実践しておられます。

「活動寿命」の講演活動を全国に展開されている日々の生活を作り上げる第一歩は、まず好奇心を持つて興味ある事を手掛けてみる。そしてそれが周囲の人達には変わっていると受け止められても、自分の思いを大切に新しい事に挑戦してきたからこそ。

『命をどう使うか』というテーマ、背中を押される時間となりました。



▲若宮正子さん（講演会にて）

「男女共同参画フォーラム」に参加して

古畑 さよ子

あいとびあ主催の男女共同参画フォーラムがオンライン配信され、昨年12月10日に隣保館で視聴しました。

基調講演は、社会学者・東京大学名誉教授・認定NPO法人WAN理事長で専門は女性学・ジェンダー

研究、この分野のパイオニアである上野千鶴子さんが講師でした。

コロナ3年目、女性の生きづらさが顕著となり、その実態を統計で紹介し、学歴・性別・出身階層などによる分断が進んでいて、格差や貧困は人災であり、政治がその仕組みを作り維持してきた、と実例を元に厳しい言葉で語られました。

男女共同参画社会の目標として、政府は2003年に、『202030』（2020年までに社会のあらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合を30%にする）を、はじめて数値目標として掲げましたが、達成できませんでした。しかし、『わきまえない女達がノイズを起こす』親世代の無念さを引き継いだ20代・30代の女性が、家庭科の男女必須・男女混合名簿・お茶くみ慣行の廃止等世の中をかえてきました。

会場での質問に対して、「母親は美德としてきたことを娘は『自分ファースト・嫌な仕事はしない・姑勤めはゴメン等』で、自分の力を発揮している女の子達に期待を掛けています。そういう女の子達の翼を折らないで欲しい」と話をされました。

加害者にも被害者にもならない。傍観者は共犯者。たくさん宿題が出され、考えさせられた時間となりました。心の中に葛藤はありますが、平穏な老後大事と思っている毎日で。

団体の紹介

婦人消防隊

隊長 山極 友子

私自身も我が家でも防災意識はありますが、日々いつでも考えていない時もある状態です。報道の火災映像を見ても自分の事と置き代える事は少々薄かったように思いますが、この度婦人消防隊長となり、改めて防災活動の重要性を認識しています。

さて、婦人消防隊は女性の持つ能力を生かして、まず家庭から火を出さないという意識を持ち、家庭の火災予防の普及、初期消火の重要性を啓発し、人命財産の損失防止を図るため、それぞれの地域で防災意識の高揚につながる活動をしています。

とにかく「我が家からは絶対に火を出さない」この一言を皆さんに伝えていきます。



▲消防団出初式（旗手本人）